

ケース8 日土橋4Hクラブの取組～五格（合格）いよかん作りにチャレンジ～

キーワード：日土橋4Hクラブ 付加価値 五格（合格）いよかん

1 学習内容

いよかんに付加価値を付け、「五格（合格）いよかん」としてのブランド化を目指した取組。

2 学習目標

「五格（合格）いよかん」のブランド化を目指した取組を理解する。

3 学習指導要領において対応する科目、単元および学習内容

「マーケティング」

(5) 価格の決定

ア 価格戦略

生産者、小売業者の価格戦略について理解させる。

「商品開発」

(5) 商品開発と知的財産権

ア 知的財産権の概要

知的財産権（商標権）の意義と概要を理解させる。

イ 知的財産権の取得

知的財産権取得の方法を学習させる。

「広告と販売促進」

(2) 広告と広報活動

エ 広報活動の意義と手法

広報活動の意義や役割について理解させる。

(5) 販売促進の発展と顧客満足の実現

ア 時代に応じた販売促進

具体的な事例を通して理解させる。

イ 販売後の消費者対応

品質保証や苦情への対応など販売後の責任やサービスについて学習させる。

「ビジネス経済応用」

(5) ビジネスの創造と地域産業の振興

ウ 地域ビジネス事情

身近な地域のビジネスの動向やビジネスに役立つ資源についての調査や研究を行わせる。また、地域産業の振興への寄与について考えさせる。

4 評価の観点

- ・4Hクラブとはどのような組織か理解している。【知識・理解】
- ・「五格（合格）いよかん」はどのようにして誕生したかについて理解している。【知識・理解】
- ・商標権の意味と商標を登録する理由について思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に適切に判断し、導き出した考えを表現している。【思考・判断・表現】
- ・今後の展望（取組）と課題について思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に適切に判断し、導き出した考えを表現している。【思考・判断・表現】

ケース 8 日土橋 4 H クラブの取組～五格（合格）いよかん作りにチャレンジ～

事例

もともとは愛媛の J A が、「合格のいいよかんキャンペーン」と称して、受験シーズンに普通のいよかんを配っていた。さらに、新品種のみかんが販売され、いよかんの価格が低迷していたこともあって、面白いよかんができれば、消費拡大にも繋がり、地元、日土町の P R にもなる、と思ったのが五格いよかんを作るきっかけであった。

1 4 H クラブ（農業青年クラブ）とは

(1) 4 H とは

Hands（腕）、Head（頭）、Heart（心）、Health（健康）の 4 つの信条の頭文字を総称したもの。

(2) 組織や目的

将来の日本の農業を支える 20～30 代前半の若い農業者が中心となって、全国の市町村や道府県を単位として、「全国農業青年クラブ連絡協議会」が組織されている。現在、日本全国に約 850 クラブ、約 1 万 3 千人のクラブ員がいて、農業経営をしていくうえで身近な課題の解決方法を検討したり、より良い技術を検討するためのプロジェクト活動を中心に、消費者や他クラブとの交流、地域ボランティア活動を行っている。

(3) 八幡浜地区青年農業者協議会

八幡浜地区には、保内 4 H クラブ、日土橋 4 H クラブ、伊方地区青年農業者協議会、三崎地区農業後継者協議会、八幡浜青年部、川上青年産業部が結成され、それぞれ独自の活動を行い、年 1 回発表会を開催している。日土橋 4 H クラブは、60 有余年の歴史があり、現在、10 名の会員がいる。

2 五格（合格）いよかん誕生

(1) 当初計画

当初の計画では、みかんでいろいろな形を作ろうと考えていた。しかし、みかんはいよかんよりも小ぶりでインパクトにかけ、短期間でしなびてしまう欠点があった。その点、いよかんは、J A が有名なキャッチフレーズ「愛媛の伊予柑、良い予感」と CM 放送をしており、「合格いよかん」＝「合格の予感」のイメージが定着していた。そこで、日土橋 4 H クラブでは、2009 年以後試行錯誤しながら、四角形や五角形のデザインのいよかん栽培に挑戦した。五角形のいよかんは、着想から 5 年、完成までに 3 年を要した。

五角形のいよかんは、物珍しさ（形）と「合格」にちなんで、テレビや新聞、雑誌などに取り上げられ、受験生や受験生の保護者の間で話題になった。

(2) 販売

2014 年に地元イベントで 1 個 2,500 円で販売したところ、受験生の親などから人気を集め、用意した 50 個をほぼ売り切った。2 年目の 2015 年は、県（南予地方局 八幡浜支局が担当）と八幡浜市の補助金を受け、メンバーの園地で約 400 個を栽培した。2 月に愛媛・香川両県共同のアンテナショップ「せとうち旬彩館」（東京都）で 1 個 3,500 円で販売し、評判も上々であった。2016 年には一部の伊勢丹百貨店で販売し、販路を広げて行く予定である。

(3) 商標登録

「五格（ごうかく）いよかん」名で、特許庁に商標登録を出願した。

(4) 今後について

五格（合格）いよかんは、付加価値の高い商品として、今後受験シーズンの定番招福アイテムになると予想される。しかし、5枚の板を組み合わせた木枠で果実を覆うことで、手間ひまがかかる。商品として店舗で販売できるものは全体の25%程度で、生産量を増やすことが大変で、販売できる商品の比率を高め、コストダウンをはかるかが課題である。

首都圏に向けて売り込むことでより多くの人に八幡浜のいよかんを知ってもらい、消費拡大のきっかけになることを期待している。

少しでも傷がついたものは、これまで売り物にできなかったが、中身に問題がないものを活用し、今後は、スイーツに加工したりすることも考えている。

(参考Web) 愛媛新聞ONLINE
JAcom農業協同組合新聞
農林水産省のホームページ

2016/2/1 資料作成

ワークシート

ケース8 日土橘4Hクラブの取組～五格（合格）いよかん作りにチャレンジ～

() 年() 組() 番 氏名()

- 1 4Hクラブとはどのような組織か、述べなさい。 【知識・理解】

- 2 「五格（合格）いよかん」はどのようにして誕生したか、述べなさい。 【知識・理解】

- 3 商標権の意味と商標を登録をする理由について考えなさい。 【思考・判断・表現】

- 4 今後の展望（取組）と課題について述べなさい。 【思考・判断・表現】

ケース8 日土橘4Hクラブの取組～五格（合格）いよかん作りにチャレンジ～

() 年() 組() 番 氏名()

1 4Hクラブとはどのような組織か、述べなさい。 【知識・理解】

将来の日本の農業を支える 20～30 代前半の若い農業者が中心となって、全国の市町村や都道府県を単位として、「全国農業青年クラブ連絡協議会」を組織され、日本全国に約 850 クラブ、約 1 万 3 千人のクラブ員がいて、農業経営をしていくうえでの身近な課題の解決方法を検討したり、より良い技術を検討するためのプロジェクト活動を中心に、消費者や他クラブとの交流、地域ボランティア活動を行っている。

八幡浜地区には、保内 4 H クラブ、日土橘 4 H クラブ、伊方地区青年農業者協議会、三崎地区農業後継者協議会、八幡浜青年部、川上青年産業部が結成されている。

2 「五格（合格）いよかん」はどのようにして誕生したか、述べなさい。 【知識・理解】

当初の計画では、みかんでいろいろな形を作ろうと考えていた。しかし、みかんはいよかんよりも小ぶりでインパクトにかけ、短期間でしなびてしまう欠点があった。その点、いよかんは、J A が有名なキャッチフレーズ「愛媛の伊予柑、良い予感」と CM 放送をしており、「合格いよかん」＝「合格の予感」のイメージが定着していた。そこで、日土橘 4 H クラブでは、2 0 0 9 年以後試行錯誤しながら、四角形や五角形のデザインのいよかん栽培に挑戦した。五角形のいよかんは、着想から 5 年、完成までに 3 年を要した。

3 商標権の意味と商標を登録をする理由について考えなさい。 【思考・判断・表現】

商標とは、文字、図形、記号もしくは立体的形状、もしくはこれらの結合またはこれらと色彩との結合で、事業者が商品または役務との関係で使用するもの。

商標権の登録は先願主義がとられており、特許庁に登録することによって、存続期間が 10 年間とされているが、更新が何度でも認められており、他者が使用できない。

また、経済的には①出所表示機能 ②品質保証機能 ③広告宣伝機能があるとされている。

4 今後の展望（取組）と課題について述べなさい。 【思考・判断・表現】

五格（合格）いよかんは、付加価値の高い商品として、今後受験シーズンの定番招福アイテムになると予想される。しかし、5 枚の板を組み合わせた木枠で果実を覆うことで、手間ひまがかかる。商品として店舗で販売できるものは全体の 2 5 % 程度で、生産量を増やすことが大変で、販売できる商品の比率を高め、コストダウンをはかるかが課題である。

首都圏に向けて売り込むことでより多くの人に八幡浜のいよかんを知ってもらい、消費拡大のきっかけになることを期待している。

少しでも傷がついたものは、これまで売り物にできませんでしたが、中身に問題がないものを活用し、今後は、乾燥させてドライフルーツにしたり、スイーツに加工したりすることも考えている。